

教育研究評議会議事録（第201回）

日 時：令和3年 4月22日（木） 14時58分～17時31分

場 所：事務局第一会議室

出席者：小川、藤代、喜多、水野、佐々木、比屋根、藪、宮本、山本（欣）、横山、宇佐美、八代、伊藤、上村、田代、宇塚、関野、境野、丸山、松岡、山本（昭）、鎌田、清水、長田、大石、船崎、村上、小藤田、山下

配付資料

- 参考1 国立大学法人岩手大学教育研究評議会規則
- 参考2 岩手大学教育研究評議会評議員名簿
- 参考3 令和3年度定例会議開催日程
- 議題1 第3期中期目標期間の教育研究に関する評価結果（4年目終了時）（案）への対応について
- 議題2 岩手大学ビジョン2030について
- 議題3 第4期中期目標期間における人件費等シミュレーション（案）について
- 議題4 国立大学法人岩手大学学長選考会議委員名簿（案）
- 議題5 日本学生支援機構第一種奨学金返還免除候補者の選考について
- 議題6 名誉教授の称号授与について
- 議題7 国立大学法人岩手大学情報システム運用基本規則の一部改正について
- 報告1 第4期中期目標・中期計画に係る文科省事前相談（4/14）
- 報告2 評価結果及び内部質保証の取組結果報告書
- 報告3 役員会報告（第532回）
- 報告4 学長・副学長会議報告（第201回～第202回）
- 報告5 令和2年度入試委員会（第8回）記録

議事に先立ち、前回議事録について、原案のとおり議事録を確定することとした。
また、本会議規則及び名簿を確認し、新任者の紹介があった。

議 題

1. 第3期中期目標期間の教育研究に関する評価結果（4年目終了時）（案）への対応について

学長から、第3期中期目標期間の教育研究に関する評価結果（4年目終了時）（案）への対応について諮る旨が述べられ、藤代理事から、資料に基づき、大学改革支援・学位授与機構の評価結果について説明があった。次いで、役員及び各学部・研究科に内容の確認を依頼した結果、学生への支援に関する目標の「キャリア形成支援」部分に記載されている評価結果に対しての意見と誤字脱字等について申し立てをしたいとの提案があった。

審議の結果、原案のとおり了承し、大学改革支援・学位授与機構へ提出することとした。

2. 岩手大学ビジョン 2030 について

学長から、岩手大学ビジョン 2030 について諮る旨が述べられ、3月25日開催の教育研究評議会において了承された「岩手大学ビジョン 2030」について、現状分析、今後の課題及び方向性をまとめた全体像の紹介があった。また、18歳人口が減少する中、10年後の入学定員は1,000人を確保したいと考えており、多様な学生を全国から集めるためには魅力ある教育・研究組織であることが必要で、今回示した図は一つの案として例示したが、具体的な取り組みは、これから構成員と共に考え協力して検討を進め、より良い組織づくりを目指したいと説明があった。

審議において、ビジョン 2030 と第4期中期目標・中期計画の策定に関して種々質問があり、学長から、岩手大学として2030年までに目指すことをビジョンに掲げ、その中で評価指標を明確にして、重点的に実行するものを第4期中期目標・中期計画として取り組んでいくとの説明があった。藤代理事から、ビジョンを実現させる中の一部が中期計画となり、今後は、ビジョン 2030 の実現に向けたロードマップと中期目標・中期計画のロードマップの全体像を共有しながら進めていくことになるので、5月14日(金)までに依頼しているビジョン 2030 のロードマップの作成は、実現の可能性も含めて現時点で一旦整理をするという観点でお願いしたいとの依頼があった。また、戦略企画・評価分析室特命課長から、資料(報告1)に基づき、4月14日(水)に行われた第4期中期目標・中期計画に係る文科省との事前相談の内容について報告があった。

さらに、組織再編に関して、今後の各学部における教員補充、文系の入学定員を増やすための新たな魅力ある教育プログラムの必要性、以前の改組時の文部科学省との協議の状況などについて意見交換及び情報共有などが行われ、学長から、年々予算も削減される厳しい状況ではあるが、10年後を見据えて考えていかなければならないとの発言があった。

最後に、学長から、各学部の5月の教授会で構成員へ説明し、意見交換をしていきたいとの依頼があり、これを了承した。

3. 第4期中期目標期間における人件費等シミュレーションについて

学長から、第4期中期目標期間における人件費等シミュレーションについて諮る旨が述べられ、次いで、佐々木理事から、資料に基づき、第4期中期目標期間の運営費交付金の配分方針は不明な状況であるが、教員補充を検討するうえで必要であるとの各学部からの要望があったため、第3期の重点支援、共通指標の評価、中期目標期間終了時の評価が続くことを仮定して作成した収入・支出及び教員ポイント案について説明があった。併せて、科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日閣議決定)の要点について説明があり、研究力、若手研究者、女性研究者及び女子学生の進学などの指標もさらに重視されるのではないかと説明があった。

審議において、成果を中心とする実績状況(共通KPI)に基づく配分を95%評価(5%)と仮定していることについて意見があり、学長から、毎年様々な取り組みを行ってきたにも関わらず過去数年間は5%評価となっているため、今までの実績を踏まえた積算としているとの説明があった。さらに、人件費削減分の再配分や教員ポイント削減に関して質疑応答が行われた。

審議の結果、運営費交付金の配分方針が明らかになるまでの暫定的なシミュレーション案として説明を了承した。

4. 国立大学法人岩手大学学長選考会議委員について

学長から、国立大学法人岩手大学学長選考会議委員について諮る旨が述べられ、次いで、昨年度選出の委員のうち農学部から推薦された委員が学部長に就任したため欠員となっていることから、村上 賢二 教授を委員とすることについて提案があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

なお、学長から、任期は令和3年4月1日から令和4年3月31日までの1年間である旨の付言があった。

5. 日本学生支援機構第一種奨学金返還免除候補者の選考について

学長から、日本学生支援機構第一種奨学金返還免除候補者の選考について諮る旨が述べられ、次いで、喜多理事から、資料に基づき、令和2年度の特に優れた業績による返還免除候補者(修士課程・教職大学院・博士課程)の選考であることの説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

6. 名誉教授の称号の授与について

学長から、名誉教授の称号の授与について諮る旨が述べられ、次いで、各学部長から、資料に基づき、候補者の功績等の説明があり、審議の結果、候補者10名に名誉教授の称号を授与することが了承された。

なお、学長から、称号授与式は、開学記念行事(6月5日(土)午後)に開催予定)の午前中に第一会議室で行う予定である旨の付言があった。

7. 国立大学法人岩手大学情報システム運用基本規則の一部改正について

学長から、国立大学法人岩手大学情報システム運用基本規則の一部改正について諮る旨が述べられ、次いで、山本副学長から、資料に基づき、国立大学法人岩手大学情報システム運用基本規則の一部改正について、情報セキュリティ体制の見直し及び非常事態への対応を追加するための所要の改正であることの説明があった。

審議の結果、原案のとおり了承し、施行日は本日付けとすることを確認した。

8. その他

なし

報 告

1. 第4期中期目標・中期計画に係る文科省事前相談(4/14)について
議題2と併せて報告。

2 . 附属学校外部評価結果報告について

3 . 役員会報告について

4 . 学長・副学長会議報告について

5 . 入試委員会報告について

資料のとおり。

6 . その他

なし

最後に、学長から、次回の教育研究評議会を、定例の5月27日(木)の15時から開催することが述べられた。